

楽しい思い出づくりは交通安全から

夏休みの解放感が事故をよく

いよいよ子供たちにとって待ちに待った夏休み。海に山に子供たちの歓声があふれる季節です。

しかし、夏休みに入ると毎年、子供たちの交通事故が増えています。長い休みの解放感から気持ちのゆるみ、ふだん身につけていた交通安全のルールを忘れがちになるからです。

そこでぜひお子さんたちと、交通安全についてもういちど、じっくりと話したい機会をもちましょう。

子供の行動特性

大人の理解できない動きをする

子供は、大人が考えつかないような行動をとることがあります。子供、とくに幼児の行動特性を挙げてみましょう。

●ひとつのものに関心が向くと周囲のものが目に入らなくなる。

●手を挙げれば、クルマは止まってくれるものと思っている。

●「危ないよ」というような抽象的な言葉だけでは、ほんとうの危険がわからない。

●いつも通る道路では交通ルールを守れても、初めて通る道路では守れない。

●物かげで遊ぶのが好き。

●音のする方向を正確に判断できない。

●手を挙げれば、クルマは止まってくれるものと思っ

●自分の子供の個性や心身の発達に応じて、お母さんが具体的に手本を示して指導することが何より大切です。



具体的な指導のポイント

そこでぜひ指導していただきたいポイントを簡単にまとめてみましょう。

■道路を横断するとき

●横断歩道では、必ずいったん止まって左右を確認することの大切さを教えましょう。

●信号が青でも、横断歩道上は左折車や右折車が通ることを教えましょう。

■自転車の安全な乗り方は
●道路の左端を正しく走ることを徹底させましょう。

車に乗ったら

シートベルトの着用を忘れずに

夏は暑さのために子供たちもくたくたに疲れているときがあります。そのため注意力が散漫となり、思いがけない事故につながる可能性があります。

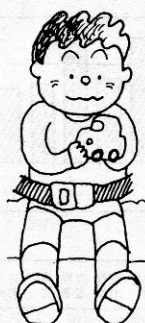
また夏休みは、クルマで帰省したり海・山に行く機会も多くなりますが、子供を交通事故から守るためには、シートベルトの着用も心がけたいものです。子供には、後部座席で二点式ベ

●自転車の通行できる歩道では歩行者の妨げにならないようにゆっくりと走ることを実行させてください。

■遊ぶ場所の安全チェックを
遊び場の安全性を事前にお母さんが自分の目で確かめてみることで

とくに遊びに夢中になって道路へ飛びだし、クルマにはねられる事故が増えています。日ごろから注意しておくことが肝心です。

そして遊び場までの往復道路は子供と一緒に歩き、横断の仕方や危険な場所を具体的に教えましょう。



ルトを着用させるか、子供用保護装置などを用いるようにしましょう。

楽しい夏休みの思い出をたくさん残すために、ぜひ交通安全についてお考えください。